

Y21a 京都における学校連携による金環日食北限界線の観測

有本 淳一 (京都市立洛陽工業高校), ほか金環日食 2012 京都学校連携連絡会一同

2012年5月21日の金環日食について、全国各地でさまざまな天文教育を目的とした取組が行われた。京都においては、天文学関係者と教育関係者がいっしょになって学校連携のための組織を作り、小学校から高校までが連携した観測を実施した。この共同観測と、その結果として決定することができた北限界線について報告する。

学校連携のための組織は「金環日食 2012 京都学校連携連絡会」という名称で、京都大学附属天文台の柴田一成を代表として、大学、高校、教育委員会、社会教育施設、NPO 法人などの関係者 8 名で構成した。この連絡会では、多くの学校で日食観察会が実施されることと、学校ごとの観測を持ち寄ることにより、北限界線の決定を目的として活動を行った。具体的な活動としては、観測会実施に向けた教育委員会への働きかけ、Web による広報、観測用紙の作成と配布、それにともなった観測方法の周知、データ集約と北限界線の決定である。

共同観測については、参加校 51 校、参加した児童生徒は少なくとも約 30 00 名となった。特に京都市は北限界線が通過する地域の中で、最も高い密度で学校が点在しており、さらに当日の天候にも恵まれたおかげで、良い精度で北限界線を決定することができた。決定した限界線は月縁を考慮した相馬一早水の予報線にほぼ一致する結果となった。

今回の取組では、共同観測に参加する各学校の担当者を集めた説明会を実施することはできず、観測用紙を配布して、それに基づいて観測を実施するという形式となった。このような形式での共同観測では、長所・短所が大きい。そのような観測に関わってまとめておかななくてはならない点や、取組全体に関わって次につなげられる点についても議論をしたいと考えている。